

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／平野貴幸(YCP)

神戸情報大学院大学
学長

炭谷俊樹



情報系の専門職大学院として 人間力のある 高度ICT人材を育成

本

学は、「人間力のある高度ICT人材の育成」をミッションとして、2005年に開設された情報系の専門職大学院大学です。ICTにおける人間力とは何でしょうか。企業ではよく、使えないシステムが問題になりま。本来、ユーザーのニーズをくんで作られるべきシステムが、自分の興味や考えを優先する技術者によって、使い勝手のよくないシステムができてしまうことがあります。そうした過程を私は、企業の現場でさんざん目にしてきました。

本学で養いたいのは、そのような自己満足のICTではなく、使つてよこされるICTを提供できる人材です。本学が取り入れている探究実践という演習は、まさにそのための手法です。授

業ではまず、社会が直面している課題を調査、選定し、ICTで具体的にどう解決し得るかという仮説をたてることから始まります。その仮説に対して、「人はよるこんでくれるか」「独自性はあるか」「収支はとれるか」という視点から検証したうえで、例えば、節電を支援するアプリケーションの開発や、サーバーのセキュリティシステムの構築など、実際のものづくりを行います。その後、ユーザーに使っていただき、フィードバックを受けて作り直し、再度検証します。こうした「探究サイクル」を回すことで、自分本意ではない、真に求められているものを生み出す力を身につけるのです。単なるものづくりで満足するものではありません。高度な技術でもつ

て、社会の課題を解決し、ユーザーに価値あるものを生み出すことこそ大切なことだと考えています。

今年はいCICAと連携し、アフリカ各国から教育や農業などの専門家を招き、ICTによって諸課題の解決を目指す研修を6週間かけて行いました。ICTの研修、あるいは各分野の研修はあっても、それらを組み合わせてソリューションを導く研修は珍しく、探究実践の手法は高く評価されました。

近いうちに、英語で授業を行うコースを設け、世界中から留学生を呼びたいと考えています。そして、例えばアプリカの農業やネパールの教育をICTでどう改善するかということを考えて、実践し、検証するよう展開したいと思っています。育てたいのは、ICTのプロフェッショナルであり、また、グローバルな視野をもち、技術を課題解決に結びつけることのできる、ICTソーシヤルイノベーターです。

人から、何をすべきか与えられ、それに対して頑張つて満点の答えを出す。そんな「偏差値型」の人材が必要とされる時代は終わりました。社会が抱える課題を自らみつけ、さまざまな人の協力を得ながら解決に向かう、探究型の人材こそ、今、求められています。

【学長プロフィール】すみに・とき●1960年生まれ。東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。マッキンゼー・アンド・カンパニーを経てランネット・グローバルスクール代表。2010年より現職。ビジネス・ブレイクスルー大学大学院客員教授。

【大学院大学プロフィール】1958年創立の神戸電子学園(現 神戸電子専門学校)を起源とし、2005年に専門職大学院として開学。情報技術研究科 情報システム専攻を有する。